

夏秋ギク型スプレーギクにおける消灯後の日長管理技術

和歌山県農業試験場

目的

夏秋ギク型スプレーギクでは、遮光資材を使った日長管理(シェード栽培)により開花時期を制御し、需要期を目撃けた計画出荷を図っています。しかし、日長管理法は個々の生産者の経験によるため、品質のバラツキや高温による出荷時期の不安定さが課題です。

そこで、農業試験場では、夏秋ギク型スプレーギクの主要品種について、遮光処理の時間や期間等が開花時期や切り花品質に及ぼす影響を調査し、適切な日長管理技術の開発に取り組んでいます。

方法

夏秋ギク型スプレーギク主要5品種について、開花遅延を起こさずに切り花品質の向上を図る目的で、消灯後の遮光処理時間と処理期間を検討しました。

○消灯後の遮光処理時間と処理期間の設定

- 慣行区: 消灯～開花まで12.5時間日長管理
- 10日区: 消灯後10日間13時間日長管理、以後慣行区と同様
- 20日区: 消灯後20日間13時間日長管理、以後慣行区と同様
- 30日区: 消灯後30日間13時間日長管理、以後慣行区と同様

到花日数 (消灯～開花までに要した日数)

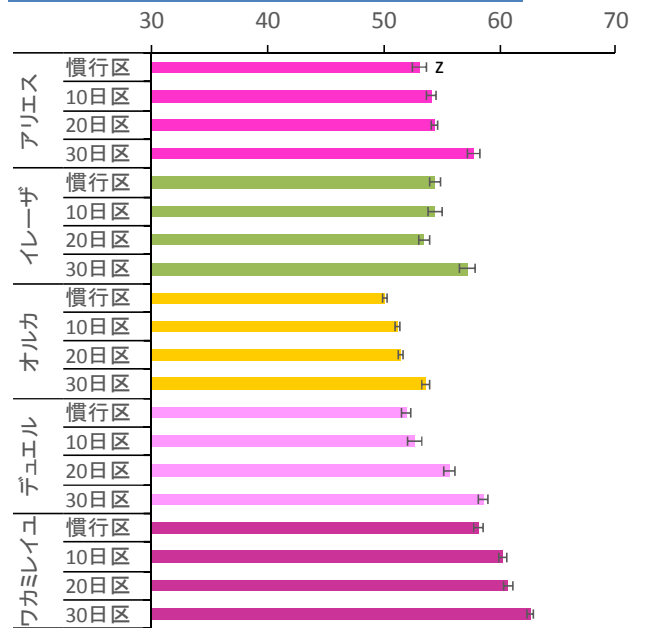


図2 消灯後の日長管理が夏秋ギク型スプレーギクの開花に及ぼす影響

z: エラーバーは標準誤差を表す

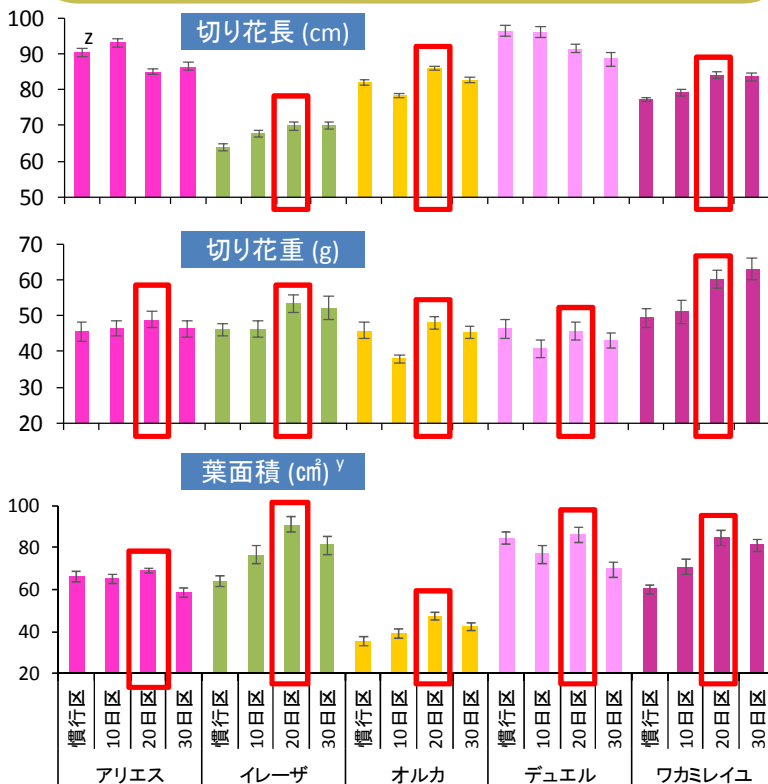


図1 消灯後の日長管理が夏秋ギク型スプレーギクの切り花品質に及ぼす影響

z: エラーバーは標準誤差を表す
y: 側花を着生する上位5葉の平均値

結果

夏秋ギク型スプレーギクの主要品種について、**消灯後20日間の日長を13時間管理とすることで、開花遅延を起こさずに切り花のボリュームが向上しました。**



消灯後20日間は13時間日長でも開花はほとんど遅れない

図3 消灯後の日長管理による開花の状況

定植: 2017年6月13日, 摘芯: 6月27日, 消灯: 7月24日
撮影品種: アリエス、撮影日: 9月15日(消灯53日後)